

# 香南市学校等の規模適正化等基本方針

令和5年10月

概要版



令和7年3月  
香南市教育委員会





## 学校等の規模適正化等基本方針策定にあたって

全国的に過疎化・少子化が進行する中、本市の人口も減少傾向にあります。

市内の小中学校では児童・生徒数が減少し、教育環境の変化による教育課題の多様化によって、教育の質の担保が難しくなっています。また、南海トラフ巨大地震における津波浸水想定区域に設置されている施設があることや、昭和から変わっていない校区が適切かどうかという問題もあります。

以上の観点から、将来的な見通しをもとに学校等の規模適正化等について検討し、本方針を策定しました。それぞれの学校がもつ豊かな特色が、新しい学校づくりの中で損なわれることのないよう取り組みを進めています。また、子どもたち一人ひとりが主体的な学習活動を通して確かな学力を身につけ、集団の中で多様な考え方に触れながら互いに学び合える学習環境を整えていきます。

※本方針は令和5年10月に策定しており、これ以降の内容についても、令和5年10月時点のものとなります。

## 方針策定の背景

### ～社会環境の変化～

人口減少や少子高齢化に伴い本市の児童・生徒数は減少傾向にあります。また、長期化する経済不況や核家族化の影響等により、子どもたちを取り巻く教育環境も変わってきており、それに伴う教育課題も多様化しています。

### ～学校施設の安全性について～

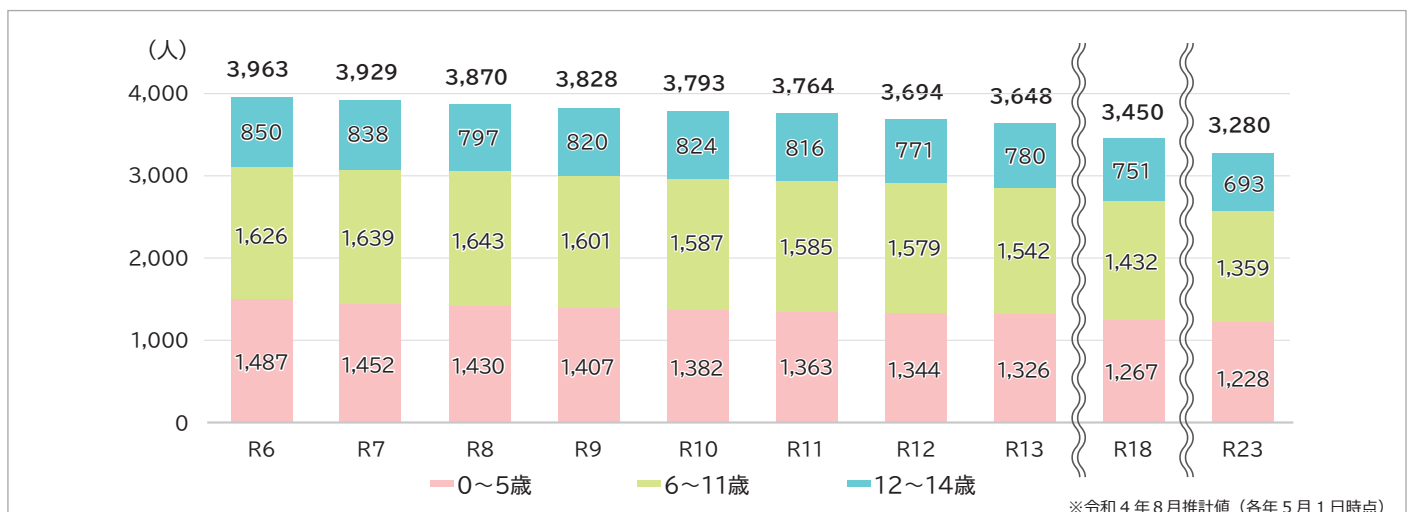
本市の保幼小中学校のうち、3保育所、1幼稚園、3小学校、2中学校が南海トラフ巨大地震における津波浸水想定区域に設置されています。本市は津波避難対策として津波避難タワー等の整備を進めていますが、保育所・幼稚園・認定こども園においては優先的に高台移転を望む声もあります。

また、国土交通省による物部川及び香宗川の洪水浸水想定区域内に位置する施設もあるほか、土砂災害警戒区域を敷地内に含む施設もあります。学校規模の検討だけでなく、すべての子どもたちの命を守るために、学校施設の立地についても再検討する必要があります。

## 香南市の学校等を取り巻く状況①

本市の0～14歳人口の推計をみると、将来にわたり減少傾向にあります。

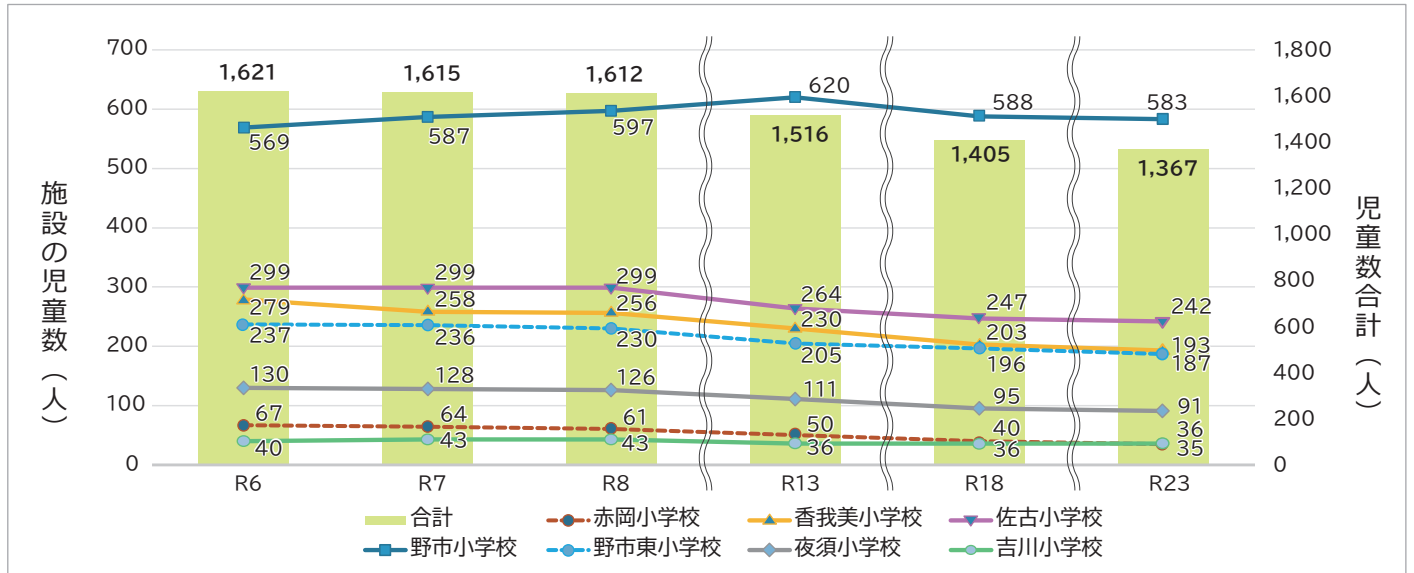
<香南市の人口推計（0～14歳）>



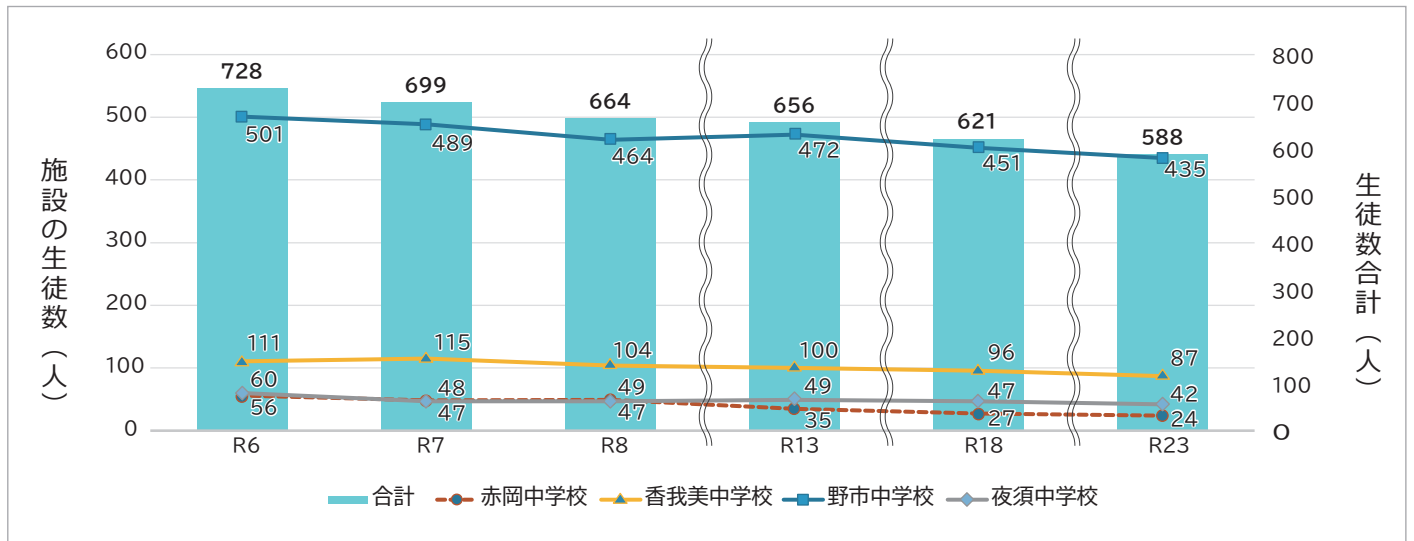
## 香南市の学校等を取り巻く状況②

施設別の児童・生徒・園児数の推計はおおむね減少傾向にあります。一部の施設では増加傾向にあり、施設によって傾向が異なります。

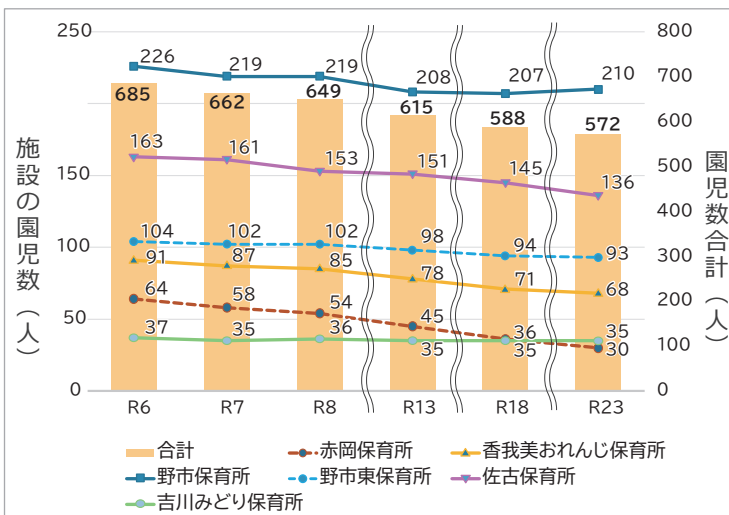
＜小学校児童数の将来推計＞



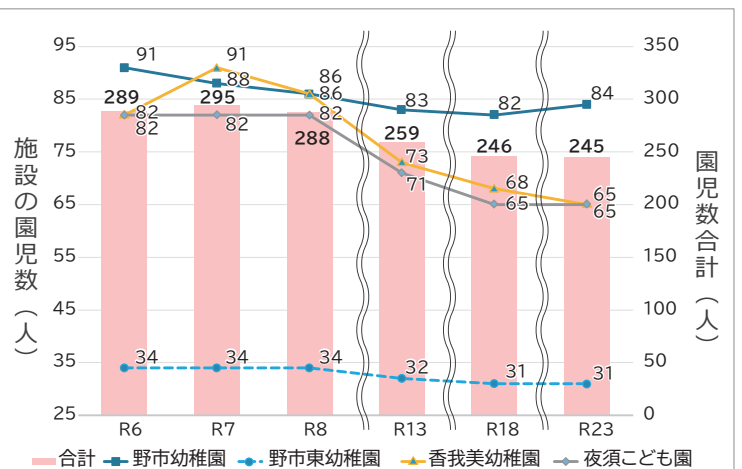
＜中学校生徒数の将来推計＞



＜保育所園児数の将来推計＞



＜幼稚園児数の将来推計＞



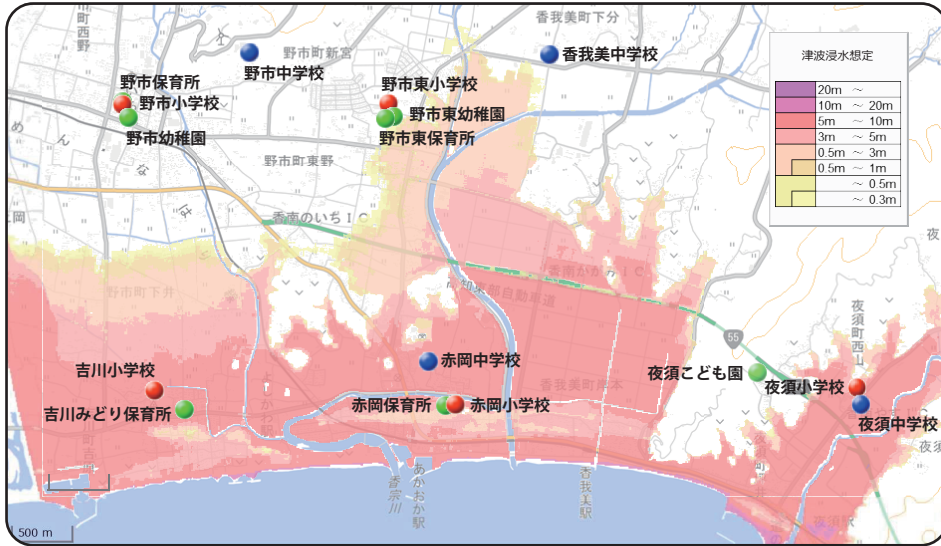
※夜須幼稚園及び夜須保育所は令和6年1月より幼保連携型認定こども園として開設  
 ※令和4年8月推計値（各年5月1日時点）

# 教育施設等の状況

本市の保幼小中学校における災害予測の一例として、津波・河川氾濫の浸水予測と学校等の配置を地図に示しました。一部の施設は津波・河川氾濫双方の浸水予測範囲内に含まれています。

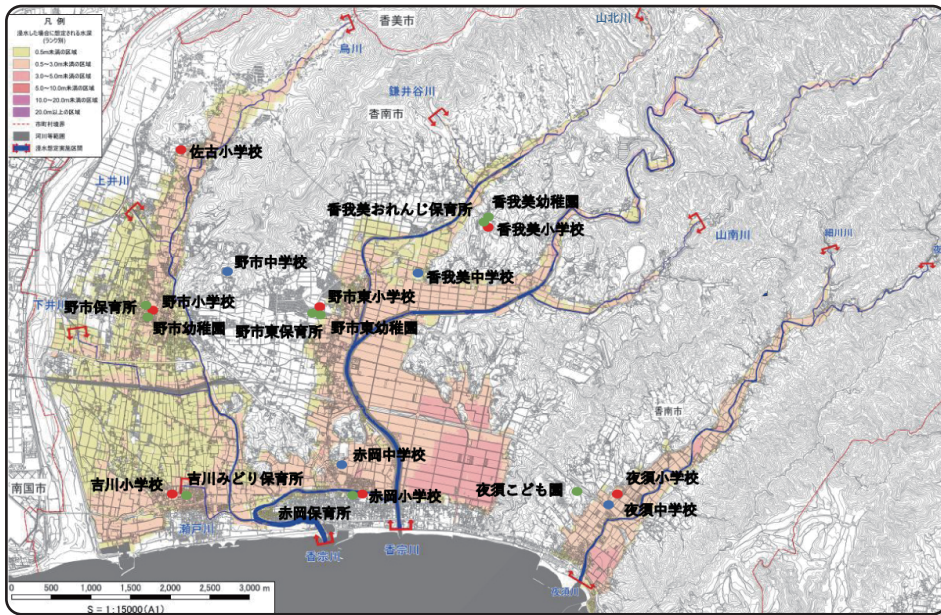
## 津波の浸水予測と学校等の配置

(国土地理院「重ねるハザードマップ」を用いて作成)



## 河川の浸水予測と学校等の配置

(2024年10月2日高知県公表)



## 保育所・幼稚園、小学校、中学校の自然災害予測

施設名	自然災害予測
夜須小学校	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m) 津波浸水想定区域(5~10m)
赤岡小学校	津波浸水想定区域(5~10m) 急傾斜地崩壊危険箇所(一部)
吉川小学校	津波浸水想定区域(5~10m)
野市小学校	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m)
佐古小学校	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m)

施設名	自然災害予測
夜須中学校	津波浸水想定区域(5~10m)
赤岡中学校	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m) 津波浸水想定区域(5~10m)
香我美中学校	※ 河川浸水想定区域(0.5m未満)
赤岡保育所	津波浸水想定区域(5~10m)
吉川みどり保育所	津波浸水想定区域(5~10m)
野市保育所	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m)
野市幼稚園	※ 河川浸水想定区域(0.5~3m)

※ 2024年10月2日高知県公表

# 小・中学校整備の基本方針

## 小・中学校整備の原則

本方針においては、学校等の整備に関する基本的な考え方として、以下の2点の原則に基づいた整備を行います。

- 津波浸水想定区域に位置する小学校、中学校は浸水想定区域外に統合する。
- 既存の学校施設をできる限り活用する。

## 規模の適正化

学校の規模については、教育活動、学校運営上等の観点や将来的な人口動向、立地の特性等に鑑み、児童・生徒の教育環境をさらに向上させていくために、以下の基準を確保することとします。

- 学校規模は、小中学校とも1クラス20人以上で、1学年2クラス以上となることを目指す。
- 児童数推計だけでなく、地理的要因等も考慮する。

## 適正配置の基本的な方針

### ① 適正配置の基準

「香南市の目指す規模」を基本に適正配置を実施します。

### ② 適正配置の方法

「学校等の統合」を基本として適正配置を実施します。

### ③ 適正配置を進めるうえで考慮する事項

以下の事項を考慮して適正配置を進めます。

- ・保護者・地域住民の理解と協力
- ・保幼小中学校の連携



## 配置、通学区等

左記の原則に基づき、学校等を新設する場合には、津波浸水想定区域外に設置します。統廃合が必要な場合には、左記の原則を重視します。

既存学校・校区の単純な統廃合だけでなく、香南市全体の校区等の見直しを含めて検討を行います。その際、通学区が拡大する校区については、地域の実情に応じ、児童・生徒の通学における安全確保や負担軽減のためにスクールバス等を運行します。

## 香南市における適正規模の範囲

### <小学校>

	1学級	1学年	1学校
香南市の目指す規模	20人以上 上限: 1・2年生 30人 3～6年生 35人	2学級以上	12～18 学級
国の示す標準規模	35人 (5、6年生は40人)	—	12～18 学級

### <中学校>

	1学級	1学年	1学校
香南市の目指す規模	20人以上 上限: 1年生 30人 2～3年生 35人	2学級以上	6～15 学級
国の示す標準規模	40人	—	12～18 学級

## 小学校の基本的な考え方

### 夜須小学校

夜須小学校は、全学年が1学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

### 赤岡小学校

赤岡小学校は、全学年が1学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台にある体育館への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

### 香我美小学校

香我美小学校は、4学年と6学年が1学級編成、その他の学年は2学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

### 吉川小学校

吉川小学校は、3学年と4学年、5学年と6学年で複式学級が編成されており、その他の学年も1学級編成の過小規模校となっています。今後も児童数の減少が予測されることから、複式学級編成を解消するため早急に規模適正化を図る必要があります。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。津波避難タワーへの避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

### 野市東小学校

野市東小学校は、5学年が1学級編成、その他の学年が2学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

### 野市小学校

野市小学校は、1学年が4学級編成、その他の学年が3学級編成の大規模校であり、今後も児童数の増加が見込まれます。規模適正化を図るためには通学区域の変更等が必要になると考えられ、慎重な対応が求められます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。

### 佐古小学校

佐古小学校は、全学年が2学級編成の適正規模校であり、今後も適正な学校規模を維持できると予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。

## 中学校の基本的な考え方

### 夜須中学校

夜須中学校は、全学年が1学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

### 赤岡中学校

赤岡中学校は、全学年が1学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

### 香我美中学校

香我美中学校は、1学年と2学年が2学級編成、3学年が1学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

### 野市中学校

野市中学校は、全学年が5学級編成の適正規模校であり、今後も適正な学校規模を維持できると予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。



## 保育所・幼稚園整備の基本方針

### 保育所・幼稚園整備の原則

本方針においては、保育所・幼稚園の整備に関する基本的な考え方として、以下の2点の原則に基づいた整備を行います。また、本市では、保幼小中学校・家庭・地域の連携（一貫）教育を推進していますが、津波浸水想定区域の保育所・幼稚園については、避難に時間を要することや、自力での避難が困難なことから優先的に高台への移転を検討します。

- 津波浸水想定区域に位置する保育所、幼稚園は浸水想定区域外に統合する。
- 既存の施設をできる限り活用する。

### 規模の適正化

保育所・幼稚園・認定こども園の規模については、教育活動、施設運営上等の観点や将来的な人口動向、立地の特性等に鑑み、児童を育む環境をさらに向上させていくために、以下の基準を確保することとします。

- 保育所・幼稚園・認定こども園においては、集団生活が本格化し、特に集団活動が重要となる4歳児・5歳児クラスについては、20人以上となることを目指す。

## 保育所・幼稚園整備の基本的な考え方

共働き世帯の増加に伴う保護者の就労環境の変化等、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しており、乳幼児期の教育・保育に対する保護者のニーズも多様化しています。また、今後の人口推計や教育・保育の需要と供給のバランスを考慮した上で、施設の長寿命化、更新及び統廃合等を計画的に行う必要があります。

保育所・幼稚園・認定こども園が生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な場であることを踏まえ、0歳児から5歳児までの一体的な教育・保育を行う認定こども園化を見据えた、保育所及び幼稚園の再編を進めます。特に、津波浸水想定区域にある保育所・幼稚園について津波浸水想定区域外への配置を最優先に進めます。

### 津波浸水想定区域にある保育所・幼稚園

#### 夜須保育所及び夜須幼稚園

津波浸水想定区域に位置する夜須保育所及び夜須幼稚園を高台に移転し、子どもの安心・安全を確保するとともに、令和6年1月に、両施設を統合した新たな幼保連携型認定こども園を整備済です。

再編前	再編後
夜須保育所・夜須幼稚園	幼保連携型認定こども園「夜須こども園」（令和6年1月開設）

#### 赤岡保育所及び吉川みどり保育所

赤岡保育所及び吉川みどり保育所についても、津波浸水想定区域外への移転を検討する必要があります。赤岡町及び吉川町には高台移転の適地がないことや、保幼小中学校連携（一貫）教育における小学校区との連携、子どもの健やかな育ちに必要な集団規模を確保する必要があることから、①野市地区の保育所・幼稚園・認定こども園での受入対応、あるいは②津波浸水想定区域外に0歳児から5歳児までの一体的な教育・保育を行う認定こども園を新設することを検討します。

再編前	再編後
赤岡保育所・吉川みどり保育所	①浸水想定区域外の保育所・幼稚園・認定こども園での受入（再編） ②浸水想定区域外に幼保連携型認定こども園を新設して受入（新設統合）

## その他の保育所・幼稚園

### 佐古保育所

佐古地区は宅地開発の進行、若い世帯の転入、共働きによる保育ニーズの増大が予想されることから、佐古地区の入所希望者全員を受入れられるよう他地区の再編を優先するとともに、佐古保育所としては対象年齢を変更せず保育所として継続します。

### 野市保育所

野市地区は住環境が整っており利便性も高いため、今後も宅地開発の進行や、共働きによる保育ニーズの増大が見込まれます。野市地区の入所希望者全員を受入れられるよう他地区の再編を優先するとともに、野市保育所としては対象年齢を変更せず保育所として継続します。

### 野市幼稚園

野市地区は住環境が整っており利便性も高いため、今後も宅地開発の進行や、共働きによる保育ニーズの増大が見込まれますが、幼稚園のニーズは年々低くなっています。

一方、幼児教育・保育無償化や、保護者の就労拡大等による保育ニーズの増大を受け、令和3年度から預かり保育の受入期間や受入時間の拡充を行っており、今後も野市幼稚園として継続します。

### 野市東保育所・野市東幼稚園 幼保連携型認定こども園 「野市東こども園」(令和7年度開設)

幼児教育・保育無償化や、さらなる保護者の就労拡大等により、保育ニーズの増大が予想されることを受け、野市東幼稚園では、令和3年度から預かり保育の受入期間や

受入時間の拡充を行いました。定員割れが続いています。

そのため、令和7年度から、野市東保育所と野市東幼稚園を統合し、1歳児から5歳児までの一体的な教育・保育を行う認定こども園に再編します。

### 香我美おれんじ保育所・香我美幼稚園

香我美地区では、0歳児から3歳児までが保育所、3歳児から5歳児までが幼稚園の選択肢しかなく、保育を必要とする家庭でも幼稚園へ通園しています。また、幼児教育・保育無償化や、さらなる保護者の就労拡大等により、保育ニーズの増大が予想されることから、香我美おれんじ保育所と香我美幼稚園を統合し、0歳児から5歳児までの一体的な教育・保育を行う認定こども園に再編します。







## 香南市教育委員会

〒781-5292 高知県香南市野市町西野 2706 番地

🍊E-mail [gakkou@city.kochi-konan.lg.jp](mailto:gakkou@city.kochi-konan.lg.jp)

<学校教育課>

🍊TEL 0887-50-3019

🍊FAX 0887-50-3020

<こども課>

🍊TEL 0887-50-3021

🍊FAX 0887-50-3024